

選抜制度	日程	研究科	専攻	科目
一般	I期	国際学研究科	国際学専攻	外国語(日本語)
受験番号		氏名		採点

I 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(内田 樹『常識的で何か問題でも?』)

【設問1】 この文章を300字以内で要約しなさい。

【設問2】 この文章に対するあなたの意見を400字以内で書きなさい。

II 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

かつて英国のサッチャー首相は、就任前と後で「声」を大きく変えたことで知られる。ロンドン・メトロポリタン大のアン・カープ教授の著書『「声」の秘密』によると、権威を得るために、声の周波数を60ヘルツも下げたそう。その結果、女性の声の平均と男性の平均のちょうど中間あたりになったという。

努力の跡は当時の映像からもうかがえる。首相になる前のサッチャー氏の声は柔らかく、優しい。私としてはこちらの方が断然、魅力的に思える。

当時の英国の有権者も、散々な評価を下した。「不自然に異様に低く、人を見下す響きがある」「犬が死んだような口調で、投票する気にならない」と揶揄したという。パワーを得るための努力が、逆に攻撃材料になってし

選抜制度	日程	研究科	専攻	科目
一般	I期	国際学研究科	国際学専攻	外国語(日本語)
受験番号		氏名		採点

まった。では、日本ではどうなのだろう。

政治学を専門とする東大の鹿毛利枝子教授らがこんな論文を出している。20～50歳の414人の有権者に声の高さが異なる架空の女性候補のスピーチを聞いてもらい、投票したいかどうかを尋ねた。

一般的に声が高い人は低い人に比べ「真実味や力強さに欠ける」との印象を持たれるという。そのため欧米では、声の低い政治家や候補を好ましいと感じ、信頼を置くという研究が多い。サッチャー首相だけでなく、米国のヒラリー・クリントン大統領候補もドイツのメルケル首相も、声を低くしたことが知られる。

鹿毛さんの実験によると、日本の有権者は、欧米ほど声の高低に敏感ではなかったという。

「これは、私も予想外の結果でした」

ところが男女別に分析すると、興味深い傾向が明らかとなった。女性有権者は女性候補の声の高低にあまり影響されない一方で、男性有権者は低い声の女性候補を好んだという。

「推測ですが、女性同士はふだんやりとりする中で、声の高低によって能力やリーダーシップが変わるものではないと実感している可能性があります。もしかしたら男性の方が、女性の声に影響を受けやすいのかもしれない」

鹿毛さんの話を聞きながら、何人かの女性政治家の声を思い出した。確かに「初の女性首相候補」として歴代、名が上がった女性のほとんどは低めの声だ。

彼女たちが意識して低い声を出しているのか、あるいは声が低いからその立場にいるのか、それはわからない。

ただ鹿毛さんは、日本で女性の政治家が少ない理由の一つとして、プライベートでは「女性らしさを示すために声を高く」、政治の世界では「信頼されるために声を低く」といった、相反する期待が求められる社会規範も関係するのではないかと指摘する。男性は内でも外でも声が低い方が魅力的とされ、女性のようなダブルスタンダードに葛藤する必要はないとも言う。

そもそも声を低くすることは単なる音の調整ではなく、「生まれ持った声」というアイデンティティーを押し殺す行為だ。それは自己肯定感にもかかわる。

もしある女性候補の演説を聞き、「何か頼りない」と思ってしまったら。そこには無意識の偏見が潜んでいるかもしれない。その偏見に気づくことは難しいからこそ、女性が政治に参加しやすくなる制度や仕組みが必要なのだ。

声の印象にとらわれず、「リーダー＝男性」という思い込みが崩れたときに、「鉄の女」でなくてもトップに立つ女性政治家が生まれるのかもしれない。

(「政治の世界の『武器』？ 女性候補の『声』に潜む偏見は」岡崎明子

『朝日新聞』2025年7月12日朝刊)

【設問1】 この文章を400字以内で要約しなさい。

【設問2】 この文章に対するあなたの意見を400字以内で書きなさい。

